



なんよう

No.94
2011.4.1

平成23年度 総会及び懇親会のご案内

総会は5月28日(土)、懇親会は8月27日(土)開催

佐賀大学楠葉同窓会の総会及び懇親会を下記のとおり開催します。これまで役員会等において検討の結果、今年度は総会と懇親会を同日開催とせず別々の日時とすることでより多くの方々が出席されるものと期待しております。どうかよろしくお祈りいたします。

なお、今年度は役員改選の時期となっておりますので役員に立候補される方は右の要領で、必要事項を記入のうえ、同窓会事務局内の役員選出委員会に届け出てください。

記

【総 会】

- ・日時場所 平成23年5月28日(土)午後4時～
佐賀ワシントンホテルプラザ11F
「銀坐八丁」
佐賀市駅前中央1丁目164番地
☎(0952)25-1111
- ・参加者 役員、代議員(会則11条)

懇 親 会

- ・日時場所 平成23年8月27日(土)午後6時～
グランデはがくれ(旧はがくれ荘)
佐賀市天神2丁目1番36号
☎(0952)25-2212
- ・参加者 楠葉同窓生会員を対象

懇親会のお世話は、経済学部58年入学者を中心に実行委員会が近々発足し、準備が進められる予定です。



役員改選(公示) 立候補者の受付について

「楠葉同窓会会則」第6条及び「役員選出規程」に基づき、5月28日の総会で選出される次期会長、理事及び監事の候補を次の要領で受け付けます。

- 1 立候補資格 同窓会正会員
- 2 受付期間 5月2日～5月16日
- 3 届出方法 次の内容を記載した書面を事務局へ提出
 - ① 立候補の区分 会長、理事、監事
 - ② 氏名
 - ③ 現住所
 - ④ 出身学部、学科、入学年次
- 4 総会当日の、会場での立候補は受け付けませんので御了承ください。

楠葉同窓会役員選出委員会

委員 富崎 昭宏(昭36入 文理・経済)
伊東 隆文(昭58入 経済・経済)
大塚 智樹(昭58入 "・")
松尾 和俊(昭58入 "・")

連絡先 佐賀大学楠葉同窓会事務局
佐賀市本庄町1番地佐賀大学内
☎ 0952-23-1253

佐賀共栄銀行支部の結成ならびに 支部総会・懇親会の開催

佐賀大学楠葉同窓会の支部として、平成22年11月24日に佐賀共栄銀行支部を結成いたしました。支部長に池田一成氏(昭和55年管理入学)支部会員55名。



また、平成23年2月4日には佐賀市内の居酒屋「むらはち」にて支部懇親会を開催いたしました。懇親会には楠葉同窓会の梅崎会長

及び佐賀大学文理学部OBの中島宏氏、吉田茂氏、副島昭十郎氏、牛島公弘氏の4名にも参加いただき、総勢20名で、まず自己紹介から始まり、今後の支部運営などについて活発な意見交換を行うなど親睦の輪を深めることができ、情報交換のよい機会となりました。和気あいあいの楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

荒木 弘幸(53入・管理)

なお、職域支部の結成は久しぶりであり、組織強化が問題となっている同窓会としても、大きな励みとなります。(編集より)

歌は流れる その59

五高七高の両応援団は、一触即発の雰囲気だった。が、まず七高側の総務と応援団長が話し合いのテーブルに着く。宿舍の県議会議事堂前に座り込む五高側と激しい応酬の末、七高側が謝罪して騒動はあっさり幕を引いた。

この後(大正15年7月末)五高は、全国高専大会に出場した。福岡・春日原球場での予選に、宿敵七高にやっと3対0で勝ち連敗の呪縛から解放される。勢いに乗り大分、松山、山口の三高商を下す、決勝は京大グラウンドで明治大予科を延長19回、死闘の末4対2で退け全国制覇をした。だが対抗戦はこの衝突事件を機に翌年の昭和2年から中止に。復活するのは終戦直後の21年7月である。

五高七高戦中止の衝撃波は、佐高や福高にも伝わった。九州の4高校長会議は素早く対抗戦の禁止を打ち出した。それに大正15年12月25日、大正天皇が葉山のご用邸で崩御され、諒闇の年にもなった。佐高の生駒萬治、福高秋吉音治両校長は、過熱する市民応援団に頭を悩ませていて、五高七高戦の中止に乗る形をとった。

これに対して生徒の側は拱手傍観してい

たわけではない。とくに福高側では、市民応援団からの寄付を断り、太鼓や手旗もいっさい使用しないと9項目の嘆願書を提出したが、秋吉校長は恬として首を振らない。こうして翌3年5月まで交渉が続き、その結果5回目の対抗戦は、この年6月3日福高グラウンドに決まった。

また対抗戦の種目も増やし春、秋季に行うことにした。春季は野球のほか柔、剣道、弓道、庭球、籠球、に弁論も、秋季には陸上競技、水泳、ラグビーと豊富な競技メニューになる。

2年間のブランクは、相手の戦力分析ができず綿密な作戦がたてれない。そのうち福高が九大で練習試合をすとの情報を掴んだ。前回の戦いで活躍、1勝もたせられた坂田義男(前出)がこの役を買って出る。坂田は着流しにハンチングを被り、何くわぬ姿で偵察、観戦し、坂田メモを基に作戦会議を開いた。

試合当日、明け方の小雨もやみ青陵原頭は翠緑に煙っていた。生徒側は学校側に誓ったとおり一般市民の入場は許しても、鳴り物入りの市民応援団は入れず、姿をみせなかった。

大谷 希幸(30卒・法)



退職にあたって

理工学部 時 井 直

文理学部の改組により、経済学部、理工学部及び教養部が設置されて、今年で45年になるうとしています。改組に伴い、新築された理工学部の講義棟や研究棟はコンクリート打ちっ放しの建物が多かった当時の大学としては珍しいタイル張りの外壁でした。学内には古い木造の建物も多く残っていたので、何かアンバランスな風景を呈していました。

文理学部化学専修の最後の入学年度生だった私は昭和43年10月から半年間、この竣工したばかりの理工学部の本館北棟を卒業研究実験のために使わせてもらいました。文理学部の講義室や実験室と比べると、理工学部のそれらは明るくて使いやすく、半年だけでも使わせて貰って大変うれしかったことを今でも思い出します。しかし、実験室の設備備品類は全て新品ではなく、文理学部で使っていた木製の実験台に、緑青のついた蛇口や古い磁器製の流し台が取り付けられていて、まるで旧制佐高や文理学部がそのまま引越して来た感がありました。古くても良いものだから移設したと言う訳ではなく、予算不足のやむを得ない措置だったようです。特に学生実験室の古い実験台は使い勝手が悪く、多くの学生の不評を買っていました。その後、これらの実験台等や設備備品類の多くは更新・廃棄されましたが、平成13年に竣工した理工学部9号館に機能物質化学科が引越すまで、30年以上に亘って化学の学生実験で使用されていたものも少なからず見受けられました。

研究・教育に係わる予算はこのように決して潤沢ではありませんでしたが、私が佐賀大学で研究・教育を長く続けられてきた背景には多くの教職員のサポートがあったこと以外に、2つ

の要因があったと思います。それは教える喜びを感じさせてくれる潜在能力の高い学生達の存在と共同研究を推進できた他大学の研究者達の存在です。研究室に配属された学生はしっかりした指導をすれば、それに呼応して伸びてゆく素質を有しています。学んで修得したことを発展させて、素晴らしい研究成果を上げてくれた学生が多かったことは研究教育を使命とする大学教員にとって、大変うれしく、願っても無い環境でした。また、研究予算も人も少ない佐賀大学のような小規模な大学の研究室で、その分野の最先端の研究を続けていくためには他大学の研究者との共同研究は不可欠です。幸い私にとって、国内外の多くの大学と共同研究を展開することができたことは大変幸運でした。

いわゆる「佐大紛争」で学内が揺れていた頃に学生だった私が卒業後すぐに理工学部の教員になり、多くの若い学生達に囲まれ、長年過ごしてきましたので、自分はまだまだ若いつもりでいましたが、退職の時を迎えました。この間、佐賀大学は多くの優秀な人材を輩出し、博士課程を有するまでに成長して、今も発展し続けています。教育の機会均等の立場から見ても、他大学と比べ、施設・研究設備等は決して充実しているとは言えませんが、法人化や近い将来頻発するかもしれない国立大学の統合といった大波に揉まれても、本学が沈没しないよう、佐賀大学も色んな意味で力をつけておくことが求められます。それには同窓会の力も今後ますます必要とされることになるでしょう。その意味でも楠葉同窓会のますますの発展を祈って止みません。

ワーキング・グループ

「組織再生・同窓会のあり方」検討会報告

ワーキング・グループ「組織再生・同窓会のあり方」検討会の検討状況については、佐賀大学同窓会報「楠の葉（2010.7.1）」において中間報告をしたところです。

今回、報告書が提出されましたので、楠葉同窓会会員の皆様に、「なんよう」の紙面を借りて、中間報告以降の検討結果について、以下のとおり概略を報告します。

検討会名称 ワーキング・グループ「組織再生・同窓会のあり方」検討会

構 成 員 光岡正登、小池政雄、百武英明、川原昭彦、長安六、青山祐二

討 論 の 柱 ①佐賀大学や佐賀大学同窓会との関係、②支部組織の強化、③名簿と会報、④総会と懇親会、⑤世代交代

1．佐賀大学や佐賀大学同窓会との関係
全学同窓会は、全国支部の組織対策のため、「組織部会」を設置して、問題を抱えている組織再生に汗を流すべきである。

2．支部組織の強化

支部活動には大きな格差があり、総じて組

織活動の低下が著しい。今後の組織対策としては、①佐賀市内職域支部（佐賀県庁、佐賀市役所、佐賀銀行、佐賀大学）の再建、②県内に多数の支部を有する県（佐賀、長崎、福岡）は整理統合が必要、③関西、熊本、長崎、宮崎を再建、④支部再建には、応分の費用を惜しむべきではない、⑤組織の活性化を補完するものとして、同期会を育成する。

3．名簿と会報

中間報告と同じ（名簿の部数等については、今後、担当部会、理事会等で議論の必要がある、会報「なんよう」については、全学同窓会会報との一本化を進める）

4．総会と懇親会

懇親会は全学同窓会であるべきであるが、まだ全学同窓会での懇親会ができない以上、楠葉同窓会独自で、①総会は5月、②懇親会は、当番学年主導の実行委員会で、8月末頃に開催する。

5．世代交代

執行体制の若返り、世代交代は我々が果たさなければならない緊急の課題である。

楠葉同窓会のブログ(<http://nanyou.area9.jp/>)を開設!!

「会則・役員」以下、7つのカテゴリーに分かれており、パソコン、携帯、どちらからでも見ることが出来ます。

「本部活動」は、役員会その他、本部の活動を逐次、掲載します。

「支部活動」は、各支部から直接、活動状況を投稿して頂き、本部と支部、支部間のコミュニケーションツールとしても活用します。

「キャンパス情報」は、経済学部を中心とした佐賀大学内外の情報を発信します。

「会報案内」は、会報「なんよう」の原稿募集や編集、発行等に関する情報を発信します。

「名簿更新」と「お問い合わせ」は、会員から住所や勤務先の変更等の連絡、投稿、問い合わせ等の連絡ツールです。



ベスビオ山(ポンペイ)大噴火の感慨

もう5年も経ってしまったが、平成17年9月、美術科卒の友人「久保山氏(31入・特美)」と二人で、イタリアを北から南へ(ミラノ ポンペイ)9日間の旅を楽しんだ。

中でも印象的だったのが、世界遺産「ポンペイの大遺跡群」。ポンペイは、ナポリ湾に面するローマの避暑地。「ナポリを見て死ぬ。」と称されるナポリ湾は、世界三大美港のひとつ。この風光明媚、気候温暖の楽園都市。ポンペイの北に位置するベスビオ火山が、79年8月24日突然大噴火した。

ベスビオ山は海拔1 281m、バッカスの聖山として住民から崇められ、親しまれていた守り神。噴火は、軽石、火山灰、豪雨そして泥流の順で山を駆け下り、繁栄の街で豊かさを誇っていた地域住民たちに襲いかかった。降灰は4日間続き、火山灰は6m~10mに達したという。

この大災害により、当時2万人(うち奴隷は8千人)の居住者のうち2千人が犠牲となった。死者の殆どが、二酸化硫黄による窒息死。多くの荷物を抱えて逃げる者は7つの城門に阻まれ、金満家の馬車は落石で動けず、財宝や貴重品を集める者は逃げ遅れ、奴隷を伴って地下室に避難した者たちは、みな有毒ガスで息を引き取ったのであった。



殆どが有毒ガスによる窒息死
(二酸化硫黄)

それから、約1600年。この間、往時を知る人達は、自家とおぼしき場所の発掘を試みたが、何せ6m~10mの石灰土を掘り起こすことは至難の業。

この大災害は、いつしか忘れられ、次第に新たな都市が、建設



ベスビオ山を遠くに見ながら
公共広場前

されていった。

1710年、付近の農夫が枯渴した自宅の井戸を掘り始めたところ、旧豪邸のものと思われる大理石の破片を発見。これが、ポンペイ掘り起こしの端緒となった。

火山灰に埋もれた死体はギブス化し、朽ち果てた肉体のあとは、きれいな空洞となり、骨、歯、装身具などが散乱していた。掘り起こしでは、空洞に液体状の石膏が流し込まれ、当時の死者が表情も豊かに蘇ったのである。そして、東京上野公園位の広さの町に展開されていた市庁舎、投票所、王宮、公共広場、秘儀荘(別荘)、円形闘技場、商店などの跡が次々と姿を現わした。

このポンペイの繁栄時代は、日本の弥生時代。やっと稲作文化が導入された時代に、ここでは歩道、車道が整備され、水道も引かれて立派な都市づくりが行われていたことに、本当に感慨深いものがある。

昨年11月17日は、長崎県雲仙普賢岳が噴火して20年になる。この噴火により報道関係者、消防、外国人など44人の尊い犠牲者を出したが、それら死体は、全て焼き尽くされて、ポンペイのような鑄型は無い。普賢岳の場合は、火砕流と土石流が主役。普賢岳は5年で終息し、その後の復興もほぼ終了したが、ポンペイは未だ発掘が続いている。

日本の弥生時代に、ポンペイではこの様な文明が展開されていたのかと思うと、感慨は更に深いし、機会があれば再度じっくり訪れたい街である。

長崎県 諫早市 白井 寛(30入・法律)

近況報告

『昭和46年経済学部入学同窓会』の開催

粉雪舞い散る1月29日(土)夕方5時から、佐賀駅北口の「和食処おおしま」で開催した。入学から40年の節目を迎え、昨年同時期の初会開催同様、遠くは名古屋や鹿児島から13名が集まり、旧交を暖めた。花一輪の田中さん(旧姓北村)も初回同様参加。

因に、初回は埼玉などからの遠来組も含め22名が集り、毎年開催することを決定するとともに、大盛況に終了した。

棚町実行委員長が欠席するドタキャンがあったが、杉山委員の軽妙な司会で幕を開け、初回から来賓の中原弘二名誉教授(社会政策ゼミ)による「高齢者医療制度をめぐる混迷」と題した講義が当時の授業並みに熱を帯び、各々が自身の問題として考え、熱心に議論に参加した(一部の参加者を除く)。

喉がカラカラに渴いたところで、井田委員の乾杯で宴会に入ったが、各々の現況報告に



笑い声が絶えず、往時の思い出話や裏話に花が咲き、各所で車座となって懇親を深めた。名古屋から駆け付けた星野君の一本締めにて一次会を終了した。

2次会は、地元の山口君の計らいで、若くて美人揃いのスナックに場所を移し、青春歌謡で燃え尽きた。

福岡在住者5名(棚町、井田、杉山、一番ヶ瀬、福田)の幹事が担当したこの会を、来年は、佐賀在住者が幹事を務めることを確認し、素晴らしい余韻に浸りながらも、次回の再会を誓って散会した。

(文責 井田)

事務局日誌 (印は楠葉同窓会)

- | | | |
|------------|--------------------------------------|--|
| H22 .11 .1 | 会報「なんよう 93」発行 | 坂西雄太 氏(医学部 H13卒) |
| 10 | 単位提供講座キャリアデザイン/講師 田本嘉昭 氏(教育学部 H15卒) | 15 「2011版」楠葉同窓会名簿会議 |
| 10 | 佐大同窓会会報「楠の葉」14編集会議 | 18 長谷川前学長佐賀新聞文化賞受賞祝賀会/ニューオータニ佐賀 |
| 13 | 筑後支部総会・懇親会/ランヴィエール勝島 | 22 単位提供講座キャリアデザイン/講師 藤瀬佳菜子 氏(医学部 H16卒) |
| 13 | 大分支部総会・懇親会/大分第一ホテル | 25 「2011版」楠葉同窓会員名簿発刊 |
| 16 | 「経済学部と楠葉同窓会との意見交換会」/佐嘉神社記念館 | H23 .1 .1 佐大同窓会会報「楠の葉」14発行 |
| 17 | 単位提供講座キャリアデザイン/講師 川原まりこ 氏(教育学部 H19卒) | 12 単位提供講座キャリアデザイン/講師 橋口敏光 氏(農学部 S52卒) |
| 17 | 佐賀大学同窓会と就職内定者との懇談会/大会館 | 12 佐大同窓会「代表役員会」 |
| 18 | 東京支部総会・懇親会/八重洲富士屋ホテル | 19 単位提供講座キャリアデザイン/講師 原口真由子 氏(農学部 H14卒) |
| 20 | 佐世保支部総会・懇親会/レオプラザホテル | 20 楠葉同窓会「役員会・新年会」/佐嘉神社記念館 |
| 20 | 第18回佐賀県青春寮歌祭/エスプラッツホール | 21 沖縄支部総会・懇親会/ロワジュールホテル那覇 |
| 24 | 単位提供講座キャリアデザイン/講師 矢島立朗 氏(理工学部 H20卒) | 27 「ワーキンググループ会議」 |
| 25 | 「2011版」楠葉同窓会名簿会議 | 2 .4 第33回「クリエイティブ21」/佐大農学部 野瀬昭博 氏 |
| 12 .1 | 単位提供講座キャリアデザイン/講師 牛島直記 氏(理工学部 H20卒) | 4 楠葉同窓会共栄銀行支部総会/むら八 |
| 1 | 佐大同窓会「代表役員会」・「佛淵学長を囲む会」/佐嘉神社記念館 | 5 鹿児島支部総会・懇親会/ホテル レクストン鹿児島 |
| 7 | 楠葉同窓会「名簿会議」 | 9 会報「なんよう 94」編集会議 |
| 15 | 単位提供講座キャリアデザイン/講師 | 23 楠葉同窓会「役員会」 |
| | | 3 .9 佐大同窓会「代表役員会」 |
| | | 24 佐賀大学平成22年度学位記授与式 |
| | | 30 楠葉同窓会「役員会」 |

発行 佐賀大学楠葉同窓会

佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内
TEL 0952 - 23 - 1253
FAX 0952 - 25 - 5700
E-Mail: dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 梅崎正道(33入・経)
編集者 宮原義幸(38入・法)
代表者
郵便振替 [01760 - 9 - 25635]